

脱サラで漫画制作会社



コワーキングスペースへの入居者が描いたイラストを手にする
大野光司さん



COLTには映像撮影用
スタジオもある

「小倉のトキワ荘」開設

大野 光司さん (55)

50代で脱サラし、漫画プロダクションを設立する夢をかなえた人がいる。長年イベント関係の仕事を携わりながら、漫画やボップカルチャーを研究してきた大野光司さん(55)は八幡西区米町のビルにある。社長として営業を担当。1年で2千万円分の受注が目標だ。

「漫画は絵を使って難しいことを分かりやすく説明で提案している。」企業へのあいさつ回りをしながら、広報用漫画やポスターなどの制作を依頼してくる」。手塚治虫や赤塚不二夫など日本を代表する漫画家が青春時代を送った東京の「トキワ荘」をモデルに、漫画の共同制作や、世界に羽ばたくクリエーターの発掘を目指す。

大野さんは「トキワ荘」の事務所はビル4階の約1千平方㍍。漫画家が机を共有しながら独立した仕事場で転機は2007年、同事務所で開かれた「日韓まんがフェスティバル」。運営に携わり、言葉が通じない日本人の若者が友人のように意気込んでいたのを見て、漫画は国境や世代も飛び越えることができる。そこで「漫画は食べられない」という声も聞いた。漫画家に憧れた少年時代の夢がよみがえった。「いまさら漫画家にはなれないが、漫画に携わる仕事をして若手をサポートしたい」

昨年末に退職を決断。漫画家向けのレンタル作業所の閉鎖を知り、オーナーに「このまま貸してほしい」と直談判し、漫画制作の拠点として借り受けた。大坂芸大で舞臺芸術を学んだ後、北九州市のデザイン・IT会社に20年以上勤務。その後、北九州市のデザイナーズ・コワーキングスペースCOLTには映像撮影用スタジオもある

50代で夢を実現 「頑張れば道は開ける」

「トキワ荘にならんで『OKIWA創プロジェクト』と命名。クリエーターの養成も大きな目的だ。

6月に退職した大野さんは退職金を開設資金につきこみ、退路を断つた。家族には当初反対されたが、「夢だけではない。事業として成り立つ自信はある」と説得。最後は妻の協力を取り付けた。「50代の自分には若い人が持っていない経験と人脈がある。がむしゃらに頑張れば道は開けるはず」

(野村創)

事務所はビル4階の約120平方㍍。漫画家が机を共有しながら独立した仕事を行う「コワーキングスペース」とミーティングスペース、映像撮影用スタジオを設けた。コワーキングスペースには地元の漫画家やイラストレーターなど10人の入居が決定。入居者はCOLTが受注した仕事をしながら独り立ちを目指す。

「トキワ荘にならんで『OKIWA創プロジェクト』と命名。クリエーターの養成も大きな目的だ。

6月に退職した大野さんは退職金を開設資金につきこみ、退路を断つた。家族には当初反対されたが、「夢だけではない。事業として成り立つ自信はある」と説得。最後は妻の協力を取り付けた。「50代の自分には若い人が持っていない経験と人脈がある。がむしゃらに頑張れば道は開けるはず」

(野村創)